

虫垂炎について

津島市民病院
外科医長大原
規彰

はじめに

虫垂炎は、虫垂という大腸の一部で炎症が起きている状態のことをいいます。急性腹痛の最も一般的な原因の1つであり、生涯のうちに発症するリスクは男性で8.6%、女性で6.7%とされています。虫垂炎は、さまざまな病因による管腔閉塞によって引き起こされると考えられています。管腔が閉塞すると粘液産生の増加と細菌の異常増殖が発生し、最終的には壊死や穿孔に至るため、適切な治療が必要です。

症状

虫垂炎の徴候および症状は、発熱、腹部の緊張、心窩部から右下腹部への移動痛、右下腹部の限局した腹痛などが挙げられます。しかし、すべての症状が出るとは限らず、発熱のみ、嘔吐のみといった場合もあります。

診断

CTは、虫垂炎の評価で最も一般的に使用される画像検査です。そのほか、身体診察および血液検査や超音波検査など総合的に評価して診断します。しかし、虫垂炎は診断が困難な場合も多く、手術時の所見や術後の病理組織診断によって初めて診断がつくことがあります。そのため、手術を行ったところ、結果的に虫垂炎ではなかったと判明することもあります。この場合は虫垂切除を行うとともに、他の病気を想定することになります。

治療

手術で虫垂を切除することが標準的な治療法です。抗生物質を投与し炎症を抑える方法もありますが、後日再発するリスクがあります。どちらの治療法を選択するかは炎症の程度をみて判断することになります。

虫垂炎の手術には開腹手術と腹腔鏡手術の二つのアプローチ方法があります。開腹手術は従来からの方法で右下腹部を5cm程度切開を行い、おなかを開いて行う手術です。虫垂炎の状況、内臓脂肪の量や体格などによっては右側腹部や腹部中央に10~20cm程度の切開を行い、大きくおなかを開くこともあります。術中所見によっては、さらに広範囲の腸を切除することもあります。

腹腔鏡下虫垂切除術は、開腹術と比較して、創傷感染の発生率が低く、術後合併症が少なく、滞在期間が短く、活動への復帰が早いといったメリットがありますが、手術時間は長くなるといったデメリットがあります。開腹手術か腹腔鏡手術かの選択は、炎症の程度やその他の要因を考慮の上で適応を判断しますが、当院では熟練のスタッフが手術に入り、積極的に低侵襲な腹腔鏡下虫垂切除を行っています。

最後に

虫垂炎に限らず、腹痛の原因はさまざまあります。たかが腹痛と考え、痛みを我慢してしまう方もいらっしゃるかと思います。腹痛がいつまでたっても改善しなかったり、だんだん痛みがひどくなってきたりする場合は、医療機関を受診するようにしてください。

